

「マケドニア人の幻」

使徒16:6~10

1. はじめに

(1) 第二次伝道旅行が始まった。

- ①この旅行は、約2年半に及ぶものである。
- ②パウロとバルナバが、マルコを同行させるかどうかで反目し合った。
- ③結果的に、2つの伝道チームが誕生した。
- ④パウロは、ルステラでテモテと出会った。
- ⑤パウロは、テモテに割礼を受けさせた。
- ⑥パウロの伝道チームは、3人態勢になった。

(2) ルカは、異邦人世界におけるキリスト教の急速な拡大を描こうとしている。

(地図表示)

①ローマ帝国内の3つの重要な州(マケドニア、アカヤ、アジア)

*エーゲ海の北-マケドニア-テサロニケ

*エーゲ海の西-アカヤ-コリント

*エーゲ海の東-アジア-エペソ

②これらの都市はすべて、ヘレニズム文明を特徴としていた。

③使徒16:11~19:20は、パウロのライフワークである。

*第二次伝道旅行と第三次伝道旅行(およそ5年間)

(3) アウトライン

- ①アジアでの伝道の禁止(6節)
- ②ビテニアでの伝道の禁止(7節)
- ③マケドニア人の幻(8~9節)
- ④導きの確信(10節)

結論

- 1. 三位一体の神の導き
- 2. 使徒の働きに見られる神の導きの原則

マケドニア人の幻について学ぶ。

I. アジアでの伝道の禁止(6節)

1. 6節

Act 16:6 それから彼らは、アジアでみことばを語ることを聖霊によって禁じられたので、フルギヤ・ガラテヤの地方を通った。

(1) 「それから」

- ① これまでは、すでに知っていた諸教会での弟子訓練が行われていた。
- ② ここから、初めて訪問する場所での伝道が始まる。
- ③ 小アジア(現在のトルコ西部)での伝道である。

(2) 「彼らは、アジアでみことばを語ることを聖霊によって禁じられたので、」

- ① 最初は、アジア州の首都エペソに向おうとした。
*アジア州は、小アジア西部のことである。
- ② しかし、西方向への移動が聖霊によって禁じられた。
- ③ ルカは、聖霊がどのようにして働かれたかは記していない。
- ④ 一行は、最初の計画を変更せざるを得なくなった。
- ⑤ 必要があるということと、それをすべきかどうかということは、別問題である。
- ⑥ この場合は、まだアジアで伝道するタイミングではなかったということである。
*エペソでの伝道は約2年後に実現する。

*使 18 : 19

Act 18:19 彼らがエペソに着くと、パウロはふたりをそこに残し、自分だけ会堂に入って、ユダヤ人たちと論じた。

(3) 「フルギヤ・ガラテヤの地方を通った」

- ① これは、ガラテヤ州のフルギア地方のことであろう。
- ② 一行は、進路を北に取った。
*黒海南岸沿いを東に移動し、ビテニア地方に行こうとした。

II. ビテニアでの伝道の禁止 (7節)

1. 7節

Act 16:7 こうしてムシヤに面した所に来たとき、ビテニアのほうに行こうとしたが、イエスの御霊がそれをお許しにならなかった。

(1) 「ムシヤに面した所に来たとき、ビテニアのほうに行こうとしたが、」

- ① ビテニアは、黒海の南岸地域である。
- ② ビテニアは、ローマ世界では重要な交通の要衝の地であった。
- ③ パウロの計画は、理にかなったものであった。

(2) 「イエスの御霊がそれをお許しにならなかった」

- ① 今度も、パウロの計画が途中で止められた。
- ② ここでは、「イエスの御霊」という言葉が出て来る。
 - * これは、珍しい用法である(使徒の働きの中ではここだけに出て来る)。
 - * ロマ8:9では、「キリストの御霊」という言葉が出て来る。
 - * ペリ1:19では、「イエス・キリストの御霊」という言葉が出て来る。
- ③ 以上の用例が示す神学的意味
 - * イエスは神である。
 - * 聖霊は、父と子から発する。
 - * イエスがパウロの伝道を導く主権者である。
- ④ どのようにしてかは記録されていないが、彼らは再び聖霊によって禁じられた。
- ⑤ ビテニアでの伝道は、後にペテロが行うようになる。
 - * 1 ペテ1:1

1Pe 1:1 イエス・キリストの使徒ペテロから、ポント、ガラテヤ、カパドキヤ、アジヤ、ビテニアに散って寄留している、選ばれた人々、すなわち、

(3) ここには、人間による綿密な計画と聖霊の導きの絶妙なバランスがある。

- ① 第一次伝道旅行では、パウロの計画した通りに伝道が進められた。
- ② 第二次伝道旅行では、より厳密な聖霊の導きがあった。

Ⅲ. マケドニア人の幻 (8~9 節)

1. 8 節

Act 16:8 **それでムシヤを通過して、トロアスに下った。**

- (1) 先に進むということが、パウロの伝道計画の基本である。
 - ① 東に戻るわけにはいかない。
 - ② 西に行くことを禁じられた。
 - ③ 北に行くことも禁じられた。
 - ④ 唯一開いている方向は、北西である。
- (2) 北西に進むと、トロアスに着く。
 - ① エーゲ海の向こうにギリシアが見える港町である。
 - ② ここは、小アジアとヨーロッパを結ぶ重要な港町である。
 - ③ また、エーゲ海と黒海を結ぶ港町でもある。

- ④トロアスは、古代都市トロイから約40キロ南にある。
- ⑤パウロは途方に暮れたことであろう。
 - *これ以上先に進むためには、船に乗るしかない。

2. 9 節

Act 16:9 ある夜、パウロは幻を見た。ひとりのマケドニア人が彼の前に立って、「マケドニヤに渡って来て、私たちに助けてください」と懇願するのであった。

- (1) トロアスに着いて間もなく、パウロは幻を見た。
 - ①パウロには自分の計画はなかった。彼は、神の導きを待っていた。
 - ②ある夜、幻の中で、ひとりのマケドニア人がパウロの前に立って懇願した。
 - *「マケドニヤに渡って来て、私たちに助けてください」
 - *「私たち」という言葉で、マケドニア人であることが分かった。
 - *これはルカだと考える学者もいるが、単なる推測である。
 - ③マケドニアは、ギリシアの北部、トロアスから真西に位置する地域である。
 - ④マケドニア人は、ヨーロッパ人である。
 - ⑤ヨーロッパは、キリストの福音を必要としていた。

IV. 導きの確信 (10 節)

1. 10 節

Act 16:10 パウロがこの幻を見たとき、私たちはただちにマケドニヤへ出かけることにした。神が私たちに招いて、彼らに福音を宣べさせるのだ、と確信したからである。

- (1) 「私たち」という言葉に注目しよう。
 - ①ここから一人称複数形の主語になっている。
 - ②ルカが宣教チームに加わっている。
 - *その経緯については、ルカは書いていない。
 - *ルカの控え目な性格が反映されている。
 - ③「私たち章句」は、16:10~17、20:5~15、21:1~18、27:1~28:16。
 - *ルカは、目撃者の視点で記録を残している。
 - ④幻を見たのはパウロであるが、宣教チーム全員が神の導きを確信した。
- (2) 彼らはただちにマケドニアに向けて出発した。
 - ①この決断は、教会史の中でも特筆すべきものである。
 - ②福音は、西回りで全世界に伝えられることになった。

結論

1. 三位一体の神の導き

(1) 使 16 : 6

Act 16:6 それから彼らは、アジアでみことばを語ることを聖霊によって禁じられたので、ブルギヤ・ガラテヤの地方を通った。

①聖霊が、アジアでみことばを語ることを禁じた。

(2) 使 16 : 7

Act 16:7 こうしてムシヤに面した所に来たとき、ビテニヤのほうに行こうとしたが、イエスの御霊がそれをお許しにならなかった。

①イエスの御霊が、ビテニアのほうに行くことを禁じた。

(3) 使 16 : 10

Act 16:10 パウロがこの幻を見たとき、私たちはただちにマケドニヤへ出かけることにした。神が私たちを招いて、彼らに福音を宣べさせるのだ、と確信したからである。

①神が、私たちを導いておられると確信した。

(4) まとめ

①三位一体の神が、パウロの伝道を導かれた。

②三位一体の神は、聖霊を通してパウロの伝道を導かれた。

2. 使徒の働きに見られる神の導きの原則

(1) 旧約聖書の聖句による導き

①使徒の補充に関して (使 1 : 20)

Act 1:20 実は詩篇には、こう書いてあるのです。『彼の住まいは荒れ果てよ、そこには住む者がいなくなれ。』また、『その職は、ほかの人にとらせよ。』

*詩 69 : 25 と詩 109 : 8

(2) 幻による導き

①アナニヤ (使 9 : 10~16)

②コルネリオ (使 10 : 3)

③ペテロ (使 10 : 10~11)

④パウロ (使 16 : 9~10 と 18 : 9)

*マケドニア人の幻とコリントでの幻

(3) 預言者による導き

①アガボによる飢饉の預言 (使 11 : 27~30)

②アガボによるパウロ逮捕の預言 (使 21 : 10~12)

(4) 状況による導き

- ①迫害による離散
- ②政治権力による追放や拘束
- ③嵐による船の難破とその後の展開
- (5) 他の信者の助言
 - ①バルナバとパウロのエルサレム教会への派遣
 - ②ユダとシラスのアンテオケ教会への派遣
 - ③テモテの伝道チームへの参加
- (6) 神からの直接的語りかけ
 - ①内的、主観的方法であることが多い。
 - ②使 16 : 6~8 は、直接的語りかけである可能性が大である。
- (7) 私たちへの適用
 - ①聖書
 - ②状況
 - ③他の信者の助言
 - ④内的確信(平安)
 - ⑤特定の導きの方法を求めるときではない。